幸手市地域福祉計画推進委員会会議における委員からの意見（要旨）

会議名称	幸手市地域福祉計画推進委員会会議
開催日時	令和５年１２月１５日（金）午後１時３０分～午後３時１５分
回答者 ※委員長◎	◎瀬川裕史、市川照夫、及川健三、遠藤年、 出井保信、小川哲也、福島朱実

（１）「幸手市障がい者の福祉ガイドの発行」ですが、事業成果が福祉ガイド３００部の印刷となっている。評価を可視化するため、例えば、ホームページのアクセス数を成果にしたほうが良いのではないか。

（２）「認知症サポーターの養成」ですが、事業成果として、認知症サポーター数２，４５５人と記載がされており、こちらは評価がしやすい。

数値の目標をしっかり出していかないと、やはり評価というのは非常にしづらいところがあるので、ぜひ他の項目に関しても、できるだけ具体的な数値を目標として出して、それに到達したかどうかという評価の仕方をしていってほしい。

（３）「生涯学習推進事業」ですが、目標に件数が記載されておらず、評価しづらい。

（４）「子育て応援サークル活動等助成事業」ですが、事業の周知はしているのでしょうか。また、予算がないならその旨、記載したほうが分かりやすいのではないか。

（５）「幸手市民生委員・児童委員協議会事業運営費補助事業」の成果は補助額ではなく、民生委員の人数のほうが良いのではないか。

（６）「子育て世代の女性の就労支援」は令和２年度以降予算化されていないいが、予算化して欲しい。どうしたら予算化されるかを検討するべきだし、需要はあると思う。

（７）「障害児保育」について、各施設の人数を目標にしたらどうか。

（８）「生活困窮者自立支援相談事業」の成果について、相談件数ではなく、相談後の就労数を成果にしたほうが良いのではないか。相談件数だと、増えたほうが良いのか減ったほうが良いのかは分からないところがある。

（９）「多文化共生推進事業」について、広報誌に英語バージョンがあっても良いと思う。同上資料該当ページＰ１１の「認知症対策の推進」の「早期発見・早期治療への取り組み」について、やっている成果はどうか。高齢者の健康診断の時に実施するのが一番良いのではないか。

（１０）妊娠中で中期・後期なら市が信頼を築き、自発的に市に相談してもらい、安心して子育てができるようにして欲しい。また、能動的に子育て総合窓口にきた人と、受動的にきた人の数が分かれば良いと思う。子育て総合窓口に来た人を能動的・受動

的に分けて集計したい。

（１１）「日本保健医療大学との連携」で、せっかく市内に医療大学があるのに、目標と成果が１名は寂しい。もう少し大学とコミュニケーションをとって欲しい。学生の中には福祉ボランティアをやりたい人はいると思う。やれば、履歴書にボランティアと書けるメリットもある。福祉ボランティアについては、幸手市の PR になるし、大学の PR にもなる。学生は意欲的な子が多いし若い力もある。学園際等で交流を図っていけば良いと思う。

（１２）「保育所運営事業」について、子供の数が少ないから待機児童がいないということなのか。昨年度から入所児童数について、増えているのか、それとも減っているのか。

（１３）「市内循環バス運行事業」について、人が乗っていなく、まるで空気を運んでいるかのように感じる。デマンドと AI システムの導入など、設備費はかかるだろうが、頭には入れておいて欲しい。

　循環バスの路線によって、行きが１５分、帰りが４５分かかるところもある。利用者が減少して高野台行きのバスがなくなるが、どう穴埋めするかが行政の役割だと思う。